

福井森林管理署

担当者
森林技術指導官:河原正二
地域林政調整官:北本秀一
TEL:050-3160-6105

- 福井県の森林は、石川、岐阜、滋賀、京都の4府県との県境に多く分布しており、県土の75%（312千ha）が森林であり、このうち国有林は37千haあります。
民有林の人工林面積は118千haで、人工林率が43%と全国平均46%とほぼ同水準にありますが、人工林面積のうち、約8割の森林が間伐対象林分（スギ）であり、森林整備が必要となっています。
一方、国有林は奥地脊梁地帯に多く分布しており、人工林率は1%と低く、保安林、国立公園、県立公園などに指定され、国土保全、水源涵養等の公益的機能の発揮に寄与しています。
- 福井県との地域林政連絡会議では、署の平成27年度事業実行と平成28年度事業予定について情報提供を行いました。
また、福井県からは、平成28年度林業施策の概要等について説明を受け、民国連携の取組に向けて意見交換を行いました。
- 市町単位をブロックとした、奥越地域及び嶺南地域においても地域林政連絡会議を開催し、地域毎のニーズ把握と民国連携の取組に向けて情報交換、意見交換を行いました。



（福井県との地域林政連絡会議の様子）

林産物の安定供給

【課題】木質バイオマス発電所への間伐材等の供給対策（継続）

【取組状況】

- 福井県木質バイオマス燃料安定供給協議会へ参画し、各地域に設置されたストックヤードへの木質バイオマスの納入実績と進捗状況に係る情報を共有。
- 福井県公的森林間伐材等安定供給協議会に参画し、林産物の安定供給に向けて情報交換を実施。
- 松原国有林において、衛生伐に係る支障木（19m³）を供給。
- 久沢及び小沢国有林において、森林整備による発生材（688m³）を供給。

【成果と今後の課題】

- スtockヤードへの木質バイオマスの納入実績の把握により、計画的な供給体制づくりを検討。
- 間伐木等のA材～C材の有効活用を推進し、関係機関が連携して需要に応じた供給体制の検討を実施。
- 一般競争入札による支障木等の販売は、供給先の用途指定は不可能であるが、資源の有効利用のため、引き続き、支障木等の積極的な供給を予定。



（木質バイオマス発電所）

森林共同施業団地の設定

【課題】鉢伏山国有林に隣接する民有林との森林共同施業団地の設定（継続）

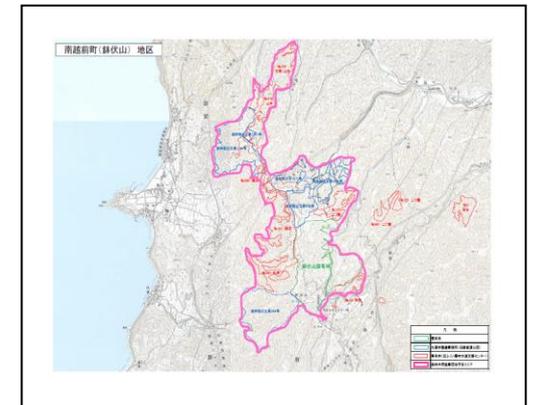
【取組状況】

- 福井県、福井水源林整備事務所及び福井森林管理署担当者による民国連携情報交換会を実施。

【成果と今後の課題】

- 森林共同施業団地設定によるメリットの具体案の検討。

【構想図面】



林業技術の普及

【課題】列状間伐及び森林作業道技術の普及（継続）

【取組状況】

- ・ 県有林において、福井県と共同で、関係市町、林業事業者等を対象に「林業専用道の路網検討会」を実施。

【成果と今後の課題】

- ・ 今年度は国有林での列状間伐等に関する現地検討会については開催出来なかったが、国有林フィールドを活用した列状間伐と森林作業道に関する技術普及、林業専用道作設に関する技術普及に、今後も継続して取り組んで行く予定。



（現地検討の様子）

鳥獣被害対策の推進

【課題】ニホンジカの個体数管理（継続）

【取組状況】

- ・ 各市町、地域の有害鳥獣対策協議会へ参画し、被害状況等の情報共有及び対策の検討を実施。
- ・ 大野市及びおおい町へニホンジカ捕獲装置を貸与し活用を開始。
- ・ ニホンジカの被害・生息状況を把握するため、国有林野内において生息・被害調査を行い、関係機関等へ情報共有を実施。今年度から新規に越前流域の国有林も調査地に追加して実施。

【成果と今後の課題】

- ・ 大野市貸与分については今年度は捕獲実績がなかった。
- ・ おおい町貸与分についてはニホンジカ1頭、イノシシ19頭が捕獲されたことにより地域の農林業被害緩和に寄与できた。
- ・ 今後、囲い罠によるニホンジカの捕獲頭数増加に向けた方策を各機関から情報を得ながら検討。
- ・ 国有林内におけるシカの目撃情報を収集し、関係行政機関等との情報共有により効率的・効果的な有害鳥獣駆除対策を検討。



（囲い罠設置の様子：大野市）



（捕獲されたニホンジカの様子：おおい町）